

利便性向上等のための投資について

2023年6月22日
あいの風とやま鉄道株

2022年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分(※)の一部を利便性向上等のための投資(「中間車両」新造のための設計費等)に活用させていただきたい。

※残余額：予算309百万円－決算17百万円＝292百万円 ⇒ (処分案) 次の①②のとおり

- ①2021年度コロナ禍での運行水準維持のための追加支援(133百万円)の繰戻し93百万円(2021年度決算における基金残余分40百万円の繰戻しと合わせて全額繰り戻し)
②利便性向上等のための投資(「中間車両」新造のための設計費等) 199百万円

521系車両の「中間車両」新造について

県内を東西に走る幹線鉄道である当社線について、①エネルギー消費量やCO2排出量の削減、②輸送力の増強、③地域交通ネットワーク機能の強化を図るため、521系車両の一部を3両編成で運行したいと考えており、このために必要な「中間車両」を新造する。

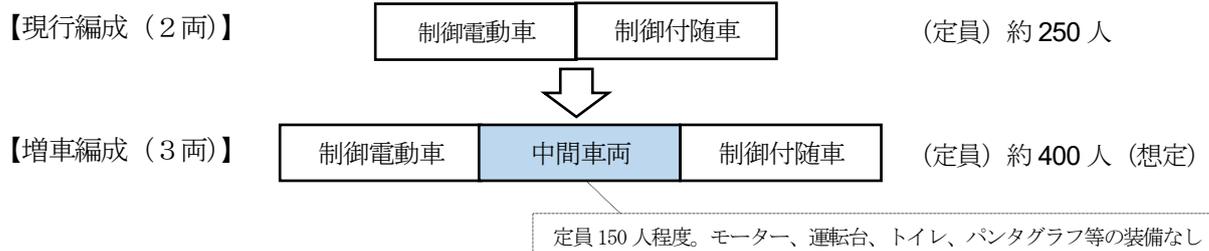
これにより利便性・快適性の向上が図られ、ウェルビーイングを向上させる地域交通サービスの実現を目指す。

1. 車両の現状

区分	現在運用中の車両数	備考
521系(新型車両) ・定員 約250人	2両／編成×2編成＝4両 (開業後に6編成新造)	通勤・通学時間帯等では連結して4両で運行(定員約500人)。
413系(旧型車両) ・定員 約360人	3両／編成×1編成＝3両 ※観光列車を除く	老朽化が進み部品調達が困難となっているため、今後長期間の運用は困難。

2. 「中間車両」の新造について

(1) 521系3両編成車両のイメージ



(2) 今後のスケジュール

- 2023(R5)年度 技術的な課題や財源の検討など
- 2024(R6)年度 車体・台車の設計、モニター装置のソフト改修など
・概算経費 : 約2億円
・財源(案) : 2022年度経営安定基金繰入金の残余分を活用
- 2025(R7)年度～ 413系車両の廃車に合わせて車両整備を検討

3. 期待できる効果

(1) エネルギー消費量やCO2排出量の削減及び効率的な車両運用

- ・旧型の413系車両を新型の521系車両に置き換えることにより、電力消費量や二酸化炭素排出量の削減につながる。
- ・需要に応じた効率的な車両運用が可能となる。

(2) 輸送力の増強

- ・一定数の中間車両を整備することにより、通勤・通学時間帯での一定数の増車が可能となる。

(3) 地域交通ネットワーク機能の強化

- ・(2)に加え、更に中間車両を整備することにより、通勤・通学時間帯での一定数の増便が可能となる。(必要な乗務員数の確保が前提)
- ・また、増便により他車線との接続改善も期待できるなど、交通ネットワークの強化につながる。

(4) 比較的小さな投資額で十分な効果

- ・中間車両にはモーターや運転台等を装備しないため、従来どおり521系車両を新造する場合と比べ、小さな投資額でより多くの定員の車両を確保することが可能となる。